

出産費用の見える化について（参考資料）

令和4年12月9日

厚生労働省 保険局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

出産費用の見える化に関する議論の状況

社会保障審議会医療保険部会 議論の整理（令和2年12月23日）（抄）

- …出産に係る経済的負担をさらに軽減するため、費用実態を踏まえた支給額の検討やサービス選択肢の確保を段階的に進めるべきである。
具体的には、以下の措置を講じるべきである。
 - ・ 出産育児一時金として必要な額の検討については、**まずは直接支払い制度の請求様式の見直し、費用増加要因の調査等を通じて、費用を詳細に把握した上で、新たに収集したデータに基づき検討すること**
 - ・ **多様な出産形態や費用、サービスを踏まえ、医療機関を選択できるよう、医療機関において選択肢の明示を促すことも検討すること**

社会保障審議会医療保険部会（令和4年9月29日、10月13日）（抄）

- 妊産婦の適切な医療機関の選択に資するよう、医療機関ごとに、費用の内訳とその分かりやすい説明も含めた見える化の仕組み、情報提供をする仕組みを構築することが考えられる。
- 明確なルールに基づいて出産育児一時金の額を決定するため、妊産婦がサービスに応じて適切な費用の医療機関を選択できるようにするため、出産費用に係るデータの収集・分析・開示の方策について、議論を進めてほしい。
- 出産費用が増額傾向にあり、出産費用の実態に即した出産育児一時金の引上げが必要。
- 少子化対策は国全体の課題であり、子育て支援は、現役世代だけでなく、全世代で支える仕組みにすべき。
- 出産費用の地域格差について、どうするか検討が必要。
- 受ける医療に格差があってはならないからこそ、正常分娩も含め全て健康保険の適用、現物給付とすべき。

妊産婦のニーズに適合した産科医療機関の選択に必要な情報の内容と提供方法の検討のための研究 予備的報告（令和4年9月）（抄）

- 調査研究の中で、妊婦・経産婦が出産施設を選択する際の情報収集において、「情報収集が簡便と感じたか」「実際に情報を入手したか」「情報収集に対する満足度」を項目別に調査。
- これらのいずれについても、「出産にかかる費用の説明方法」、「出産にかかる費用の説明内容」の2項目は、他の項目と比べ、最も低い結果となった。

出産費用の見える化の必要性

第210回国会 衆議院予算委員会（令和4年10月18日） 岸田総理大臣の答弁（抄）

- 御指摘の出産育児一時金ですが、これまでも、平均的な出産費用の状況を踏まえて見直しをしてきたところです。平成21年に42万円に引き上げられましたが、その後も出産費用は年々上昇している状況にあると認識をしています。こうした状況を踏まえて、全国に様々なケースがありますが、その中で平均的な標準費用が全て賄えるよう、出産育児一時金の大幅な増額を表明したところであり、具体的には予算編成過程で決定してまいりたいと思います。
- そして、金額の引上げ、もちろん大事ですが、もう一つ重要なポイントは、出産育児一時金の引上げの議論においては、必要以上に値上げが行われたり、意図しないサービスが付加されることによって利用者の負担増が発生する、こうした事態は適切ではないと御指摘がありました。
- これに対して、出産育児一時金の引上げに当たっては、妊婦の方々が費用やサービスを踏まえて適切に医療機関を選択できる、こうした環境を整備することが重要であると思っています。金額と併せて、こうした環境整備、出産費用などに関する情報が見える化するための方策、これも併せて検討することが実質的な負担軽減につながると考えております。

出産費用の見える化の方策について

- これまでの出産の費用の見える化の議論を踏まえ、被保険者等である妊婦の方々が適切に医療機関等を選択できる環境を整備するため、直接支払制度を行っている医療機関等について、以下の項目を公表することとしてはどうか。

① 出産費用の状況等（直接支払制度の専用請求書の内容から算出）

- ・ 平均入院日数
- ・ 出産費用（※）の平均額
- ・ 室料差額の平均額
- ・ 無痛分娩管理料の平均額
- ・ 妊婦合計負担額の平均額

※ 専用請求書の「妊婦合計負担額」から、「室料差額」「産科医療補償制度」「その他」「無痛分娩管理料」を除いた額

② 室料差額、無痛分娩等の取扱いの有無

③ 分娩に要する費用及び室料差額、無痛分娩等の内容（価格等）の公表方法

出産費用の見える化の公表イメージ

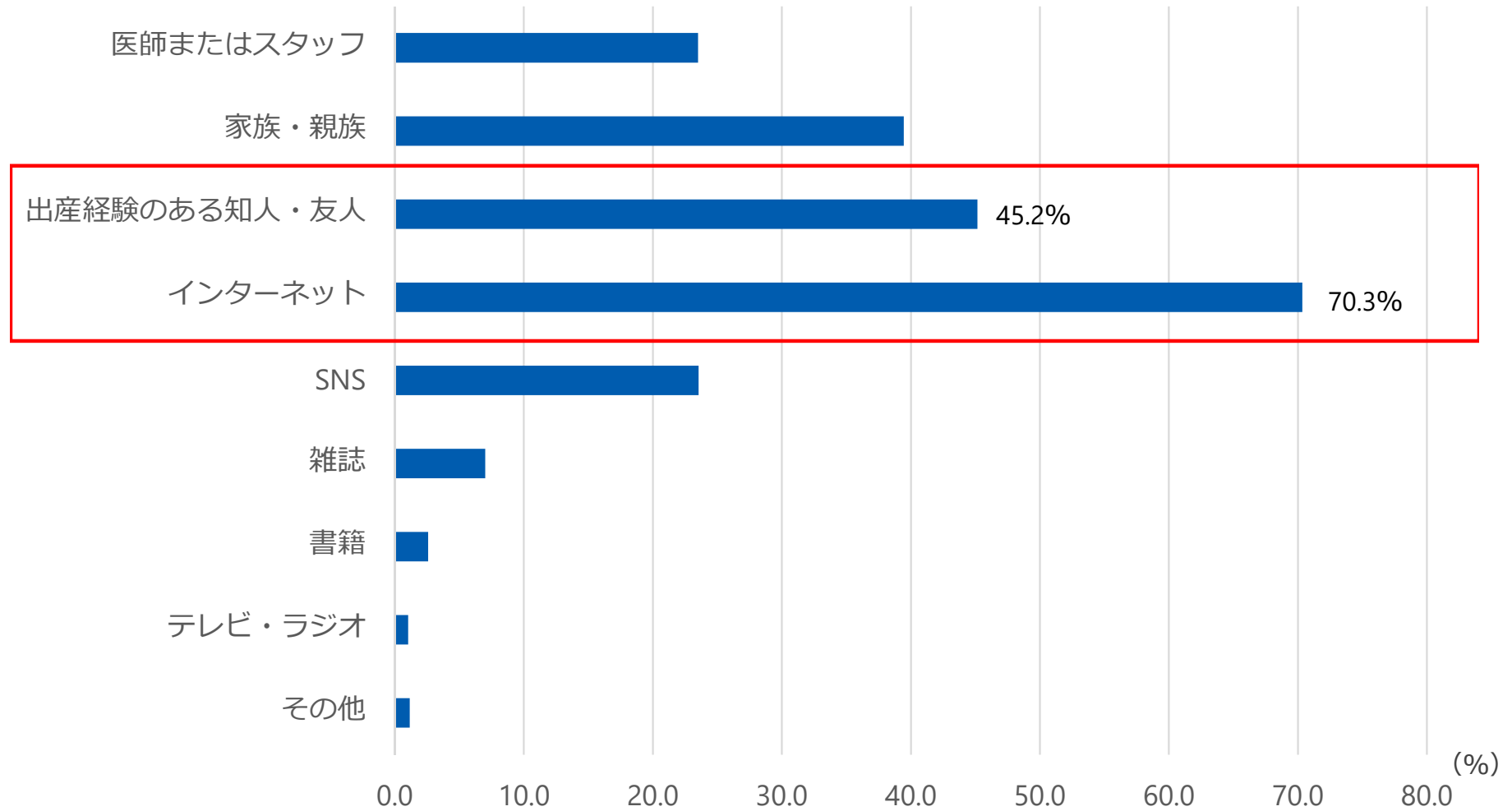
令和〇年〇月〇日現在

都道府県	医療機関等の名称	① 出産費用の状況（正常分娩）					② 室料差額、無痛分娩の取扱い		③ 分娩に要する費用及び室料差額、無痛分娩の内容の公表方法
		平均入院日数	出産費用の平均額	室料差額の平均額	無痛分娩管理料の平均額	妊婦合計負担額の平均額	室料差額	無痛分娩	
●●県	〇〇医院	○日	○円	○円	○円	○円	有	無	HP掲載
	△△クリニック	△日	△円	△円	△円	△円	有	無	HP掲載
	□□病院	□日	□円	□円	□円	□円	有	有	HP掲載
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

参 考

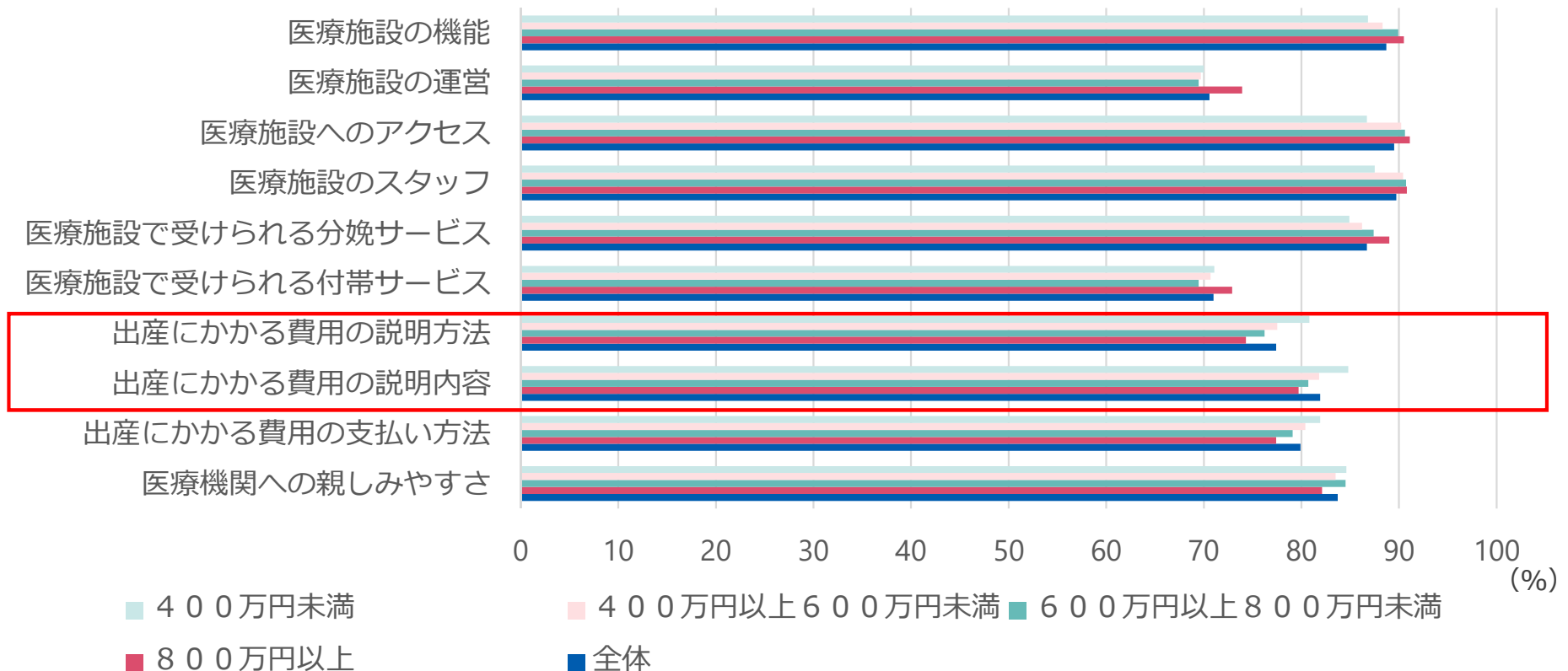
情報入手方法

- 出産関連の情報の入手方法について、実際に収集を行った媒体については、「インターネット」が70.3%、次いで「出産経験のある知人・友人」が45.2%だった。



出産施設選択時に重視する点（世帯年収別）

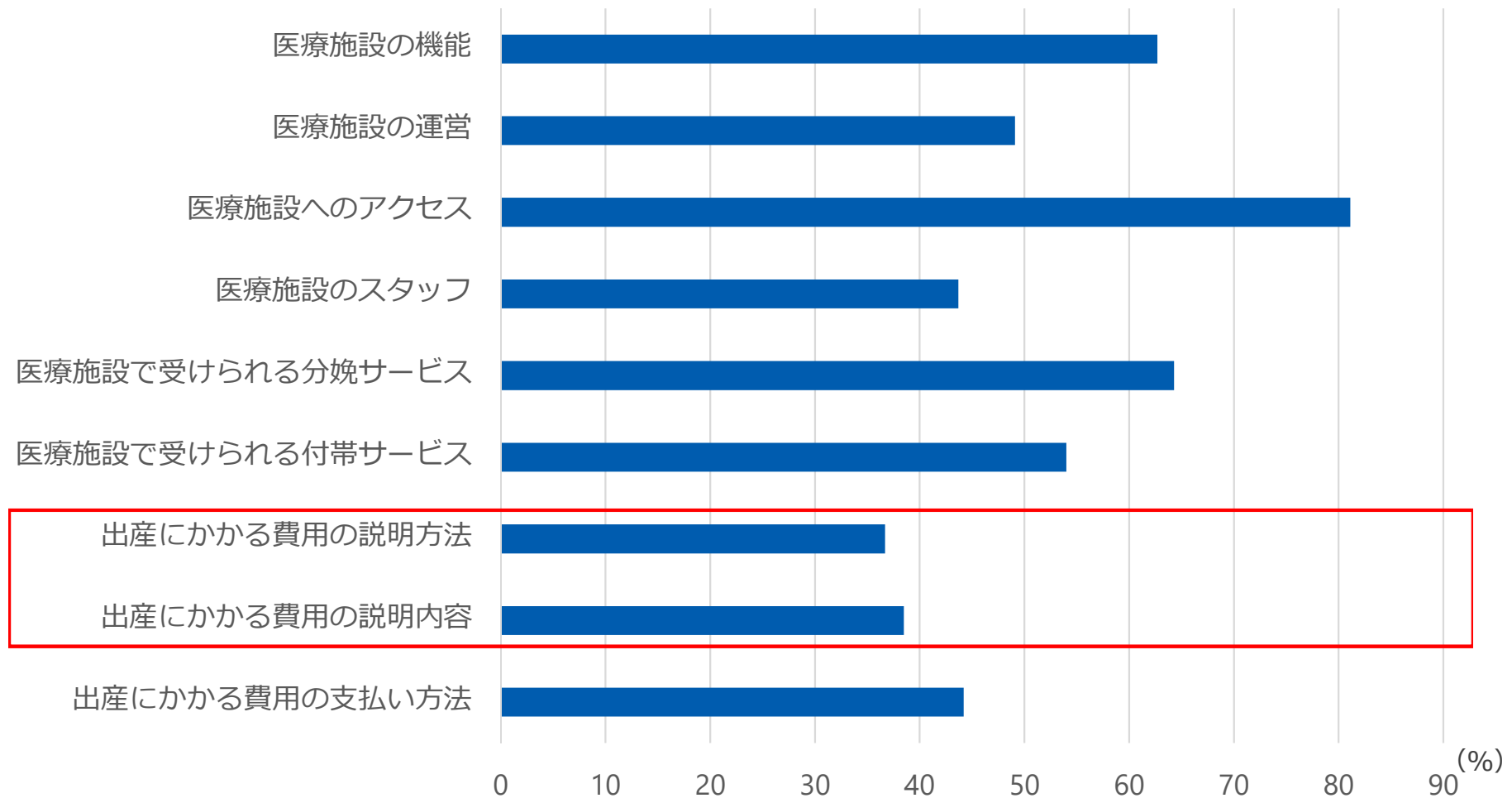
- 出産施設を選択する際に、〈重要〉との回答が最も多かったのは、「医療施設のスタッフ」、「医療施設へのアクセス」、次いで「医療施設の機能」であった。最も重要度が低かったのは、「医療施設の運営」、次いで「医療施設で受けられる付帯サービス」であった。
- 世帯年収とのクロス集計では、「医療施設の機能」、「医療施設の運営」、「医療施設へのアクセス」、「医療施設のスタッフ」、「医療施設で受けられる分娩サービス」は、年収帯が高いほど重要と答える割合が高く、「出産にかかる費用の説明方法」、「出産にかかる費用の説明内容」、「出産にかかる費用の支払い方法」、「医療機関への親しみやすさ」は、年収帯が低いほど重要と答える割合が高い傾向にあった。「医療施設で受けられる付帯サービス」は、施設選択時に重要視されていないため、年収による影響が少ない可能性も考えられる。



※〈とても重要〉〈まあまあ重要〉と回答した人の割合

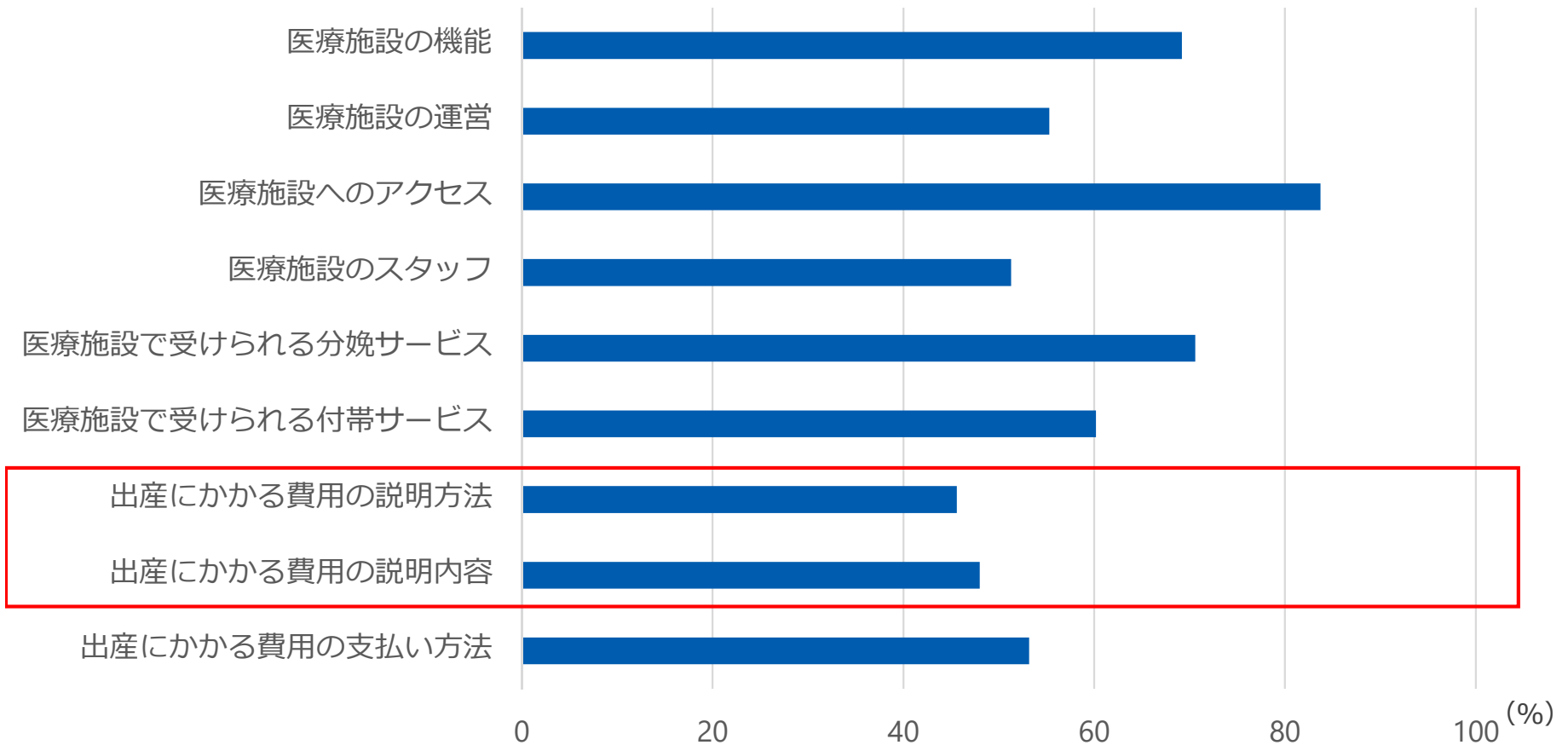
出産施設選択時の情報収集の簡便さ

- 情報収集が簡便と感じる割合が高かったのは、「医療施設へのアクセス」、「医療施設の機能」、次いで「医療施設で受けられる分娩サービス」であった。反対に、「出産にかかる費用の説明方法」、「出産にかかる費用の説明内容」では低い結果となった。



出産施設選択時の情報の入手度

- 情報の入手割合が高かったのは、「医療施設へのアクセス」、「医療施設で受けられる分娩サービス」、次いで「医療施設の機能」であった。最も低かったのは、「出産にかかる費用の説明方法」、「出産にかかる費用の説明内容」であり、情報収集の簡便さと同じ結果であった。



出産施設選択時の情報収集に対する満足度

- 情報収集への満足度が高かったのは、「医療施設へのアクセス」、「医療施設の機能」、次いで「医療施設で受けられる分娩サービス」であった。最も低かったのは、「出産にかかる費用の説明方法」、「出産にかかる費用の説明内容」であった。

